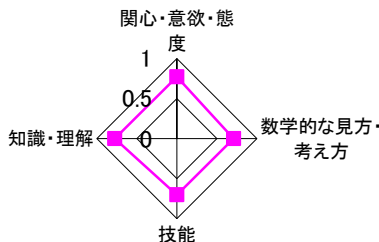


内容別・観点別の分析 (様式2)

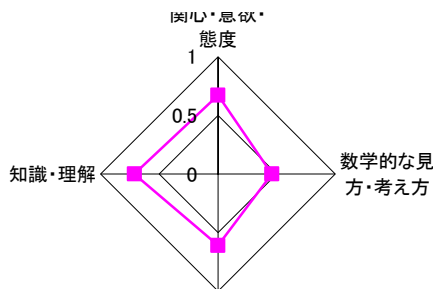
定期考査及び7月までの指導状況の分析

1年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	77%
数学的な見方・考え方	71%
技能	71%
知識・理解	78%



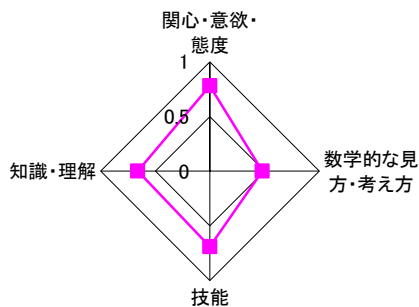
定期考査及び7月までの指導状況の分析

2年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	67%
数学的な見方・考え方	46%
技能	61%
知識・理解	71%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

3年	観点別平均正答率
関心・意欲・態度	78%
数学的な見方・考え方	48%
技能	69%
知識・理解	66%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画 (様式3)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	全体的には全ての観点に対して概ね定着してきているが、基礎学力が十分に身に付いていない生徒もいる。引き続き、全ての生徒の学力を高められるよう、様々な手法を用いて、生徒のやる気を引き出していく。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の知的好奇心をくすぐるような指導を心がける。 基本問題の演習を多く行い、基礎学力を定着させていく。 すぐに解説するのではなく、ヒントを与え、生徒自らの力で答えを導かせ、分かる喜びを経験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストを行い、基礎基本が定着しているかを理解する。 学力向上支援講師と連携して個別指導と補充学習を実施する。 家庭で行う課題(宿題)を出し、「勉強する」ということを定着させる。
2年	見方・考え方と技能の観点而定着していないので、この点について指導改善する必要がある。また、次年度は最上級学年になるので、意欲的に取り組む姿勢もしっかりと定着させることも必要である。	<ul style="list-style-type: none"> すぐに解説するのではなく、少しずつヒントを与え、生徒自らの力で答えを導かせ、分かる喜びを経験させる。 計算問題などの基本的な演習を数多く行い、計算技能を定着させる。 生徒の知的好奇心をくすぐるような指導を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストを行い、基礎基本が定着しているかを理解する。 学力向上支援講師と連携して個別指導と補充学習を実施する。 家庭で行う課題(宿題)を出し、「勉強する」ということを定着させる。
3年	最上級生となり、学習に前向きに取り組む姿勢ができてきた。知識や技能も少しずつ定着してきている。一方で「数学的な見方・考え方」が他の観点に比べて不十分なところがあるのでこの点について指導改善する。	<ul style="list-style-type: none"> レポートや小テストを行い、深く考える場面を増やす。 自らの考え方を説明できるような指導場面を設定する。 すぐに解説するのではなく、ヒントを与え、生徒自らの力で答えを導かせ、分かる喜びを経験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストを行い、基礎学力の定着を図る。 学力向上支援講師と連携して個別指導と補充学習を実施する。 3年間の復習確認テストを行い各自の学習課題を確認できるようにする。